

ザナミビル(リレンザ)静注投与(unlicensed preparation)による  
新型インフルエンザ(H1N1)肺炎の治療(要約)

日本呼吸療法医学会  
新型インフルエンザ委員会

H1N1 pneumonitis treated with intravenous zanamivir. Lancet 2009; 374: 1036.

ザナミビル（リレンザ）静注投与（unlicensed preparation）による新型インフルエンザ（H1N1）肺炎の治療

・22歳、女性。合併症として Hodgkin 病に対する化学療法による neutropenia。ICU にて管理。

Day 0：呼吸不全に対し非侵襲的人工呼吸（noninvasive ventilation: NIV）。オセルタミビル（タミフル）150 mg/日にて開始。抗生物質として meropenem, teicoplanin, caspofungin 使用。

Day 3：治療効果得られず。気管挿管人工呼吸へと移行。ハイドロコルチゾン投与開始。

Day 6：neutropenia は改善。ザナミビルを人工呼吸器ネブライザーより投与開始（unlicensed route）、1回 15 mg、2～4 回/日。

Day 10：BAL 中に H1N1 ウイルス量を高レベルに確認。

Day 13：オセルタミビル 300 mg/日にて再開。

Day 16：臨床所見、ウイルス学的所見の改善得られず。同日、ザナミビル（リレンザ）600 mg を2回/日の静注投与にて開始（unlicensed preparation、グラクソ・スミス・クラインより提供）、同時にメチルプレドニゾロン低用量にて開始。

Day 18：48 時間以内の臨床症状の改善が認められた。

Day 21：BAL 中の H1N1 ウイルス量は著明に減少。人工呼吸器離脱。

Day 24：一般病棟へ転室。

注：正確な治療内容、各薬剤の投与内容等は原本（Lancet 2009; 374: 1036, [http://www.thelancet.com/journals/lancet/article/PIIS0140-6736\(09\)61528-2/fulltext](http://www.thelancet.com/journals/lancet/article/PIIS0140-6736(09)61528-2/fulltext)）にて確認してください。